

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第2回ふじみ野市スポーツ推進審議会			
開催日時	令和8年3月18日（水） 開会時刻 午後6時 閉会時刻 午後8時40分			
開催場所	本庁舎2階A202会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	森 浩寿	副会長	石川 健一
	委員	八尾 陽夏	委員	工藤 陽介
	委員	大脇 三成	委員	栗田 大悟
	委員	篠島 幹昌	委員	松本 元明
	委員	平澤 奈古	委員	竹林 康彦
	委員	渡部 美和		
会議の議題	(1) 令和7年度の事業実績と主な取組みについて (2) 令和8年度事業計画について (3) 部活動の地域連携の取組みについて			
会議の公開又は非公開の別	公開			
傍聴人の数	1人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	【資料1】 令和7年度スポーツ推進事業の実績について 【資料2】 令和8年度の主な取り組み(案)について 【資料3】 ふじみ野市部活動地域連携の取組と方向性 参考資料 スポーツ活動地域支援事業(実施報告)			
事務局	市民活動推進部 文化・スポーツ振興課			
議事の確定	確定年月日	令和8年3月31日		
	記名押印 又は署名	役職名 森 浩寿 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。		

別紙

(会議の経過)

発言者	議 題 ・ 発 言 の 要 旨 ・ 決 定 事 項
森会長	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>議題1 令和7年度の事業実績と主な取組みについて</p> <p><事務局説明></p>
工藤委員	<p>まぜこぜ運動クラブは、月1回、約20名が参加し、楽しく活動している。保護者からの評価も高く、継続を望む声が多いため、まずは現行の実施を維持することが重要である。</p>
八尾委員	<p>まぜこぜ運動クラブは、サポートが必要な子どもも含め円滑に運営できている。多様な指導者により安定した体制が整っている。</p>
平澤委員	<p>まぜこぜ運動クラブでは、子どもたちの成長が見られ、継続の効果が表れている。</p>
工藤委員	<p>ボッチャクラブは、月1回、約30名が参加し、目的別にグループ分けして実施している。市民大会・県大会において優勝するなど、成果が上がっている。</p>
	<p>議題2 令和8年度事業計画について</p> <p><事務局説明></p>
篠島委員	<p>野球場のリニューアル時期を教えてください。</p>
事務局	<p>令和8年11月にリニューアルオープン予定である。</p>
石川副会長	<p>市内スポーツ団体では、指導者の高齢化や後継者不足が進み、団体の解散も見られる。若者の価値観の変化により、従来の組織運営は限界にきているように感じる。</p>
栗田委員	<p>子どもに限らず、大人や親子も対象とした「楽しむスポーツ事業」の展開が必要である。競技にこだわらず、参加しやすいイベント形式の導入を検討しても良いのではないか。</p>
石川副会長	<p>令和8年度に、スポーツ協会設立20周年事業として「スポーツ体力測定」を計画している。まずは小学校高学年から中学生を対象に実施し、効果を検証していきたい。</p>

発言者	議 題 ・ 発 言 の 要 旨 ・ 決 定 事 項
	議題3 部活動の地域連携の取組みについて
事務局	<事務局説明>
栗田委員	部活動は学校教育の一環であるが、教員の働き方改革により従来の運営は難しくなっている。特に休日の地域移行については、教員の関与が減ることへの不安と、生徒の活動機会確保の両立が課題である。また、勝利至上主義ではなく人間形成を重視し、限られた時間の中で計画的に取り組めば、地域連携でも成り立つと考える。
大脇委員	スポーツの本質は競技性にあるが、現行制度とのバランスが取れていない。大会運営や競技のあり方（トーナメント中心など）も含め、制度全体の見直しが必要である。
工藤委員	地域クラブや外部指導者の活用は重要だが、受け皿の不足が課題である。特に平日の指導者確保は現実的に難しく、持続可能な体制構築が必要である。
篠島委員	現場レベルでの対話が不足している。学校と地域が直接話し合い、できることから段階的に進めることが重要である。
石川副会長	部活動の地域連携は不可避であり、将来的には移行が進むと考えられる。そのため、地域・学校・指導者が一体となった体制づくりが必要である。
篠島委員	現在の課題の多くは、学校側の関与や参加状況に左右されている。参加人数のばらつきや事前把握の困難さが、運営上の大きな課題となっている。指導内容や運営の質は、安定した参加状況が前提となるため、まずは体制の安定化が必要である。
八尾委員	継続的な指導を担保するためには、働き方やお金の問題は避けて通れない。中学校・高校の3年間、あるいはそれ以上の長期間にわたり、責任を持って指導に当たってくれる人材を確保し続けることは非常に難しい課題であると認識している。
森会長	運営体制の構築が最重要課題である。参加者を増やすためには、活動の魅力向上が不可欠であり、多様なニーズに応じたプログラムが必要である。受け皿となる地域クラブや指導者の確保は短期間では困難であり、長期的な視点で整備する必要がある。
松本委員	参加は任意であるため一定の自己負担は必要だが、金額設定には配慮が求められる。
渡部委員	費用負担については避けて通れない課題であり、受益者負担の導入は必要と考える。
栗田委員	経済的理由により参加できない子どもが生じないように、公的支援や補助制度の検討が必要である。

発言者	議 題 ・ 発 言 の 要 旨 ・ 決 定 事 項
工藤委員	受益者が必要経費を支払うことで指導者側の責任感と、参加者側の「お金を払って参加している」という自覚を生み、相互の信頼関係や継続性（安易に休まない等）にも繋がると考える。
平澤委員	指導に対する責任を明確にするという意味で、保護者が一定の金額を負担することは、現在の社会情勢からも致し方ない。ただし、費用負担がハードルとなり、「やりたいけれど無理だ」という家庭が出ないような制度設計を並行して行うことが不可欠である。
篠島委員	地域移行が進んでいる他自治体では、参加率や負担増など新たな課題も発生している。先行事例を踏まえた慎重な検討が必要である。
石川委員	運営には一定の経費が必要であり、行政負担と保護者負担のバランスを取ることが重要である。また、家庭の事情により参加できない子どもへの配慮も必要であり、地域全体で支える仕組みが求められる。
大脇委員	指導者や参加者双方に責任意識を持たせるためにも、一定の費用負担は有効である。また、地域連携の周知を進めるとともに、専門性を要しない分野も含めて地域住民の参画を広げていくことが必要と考える。
竹林委員	参加は任意であるため、一定の自己負担は妥当である。ただし金額設定は慎重に行う必要がある。
	4 その他
事務局	事務局より説明 ・ 来年度以降の委嘱については、後日正式な文書にて通知する。 5 閉会